

科目コード	51181002			単位	2	時間数	30
授業科目名	くらしと法B - 法学 -			開講学期等	後期	時間割	金3・4
授業科目名英字	Introduction to Law : B						
備考				授業の形式	講義	必修・選択	選択
				受講対象学生	全学部 1・2・3・4年		
内容的に密接に関係する授業科目	日本国憲法 B・C			履修する際に前提とする授業科目			
【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】
小野寺倫子	教育文化学部	教文3 328	018-889-2659				
オフィスアワー	【曜日及び時間】	月曜日 11:00~12:00		【場所】	教文3 328室		
授業の目的				授業の到達目標			
法学一般に共通する基本的な知識・思考力を身につける。				法学科目を学ぶ際に必要な基礎的・基本的な考え方と知識を身につける			
カリキュラム上の位置付け	法律諸科目を学ぶ際の共通の基礎となる科目である。						
授業の概要	法学入門のための定評ある教科書の読解を通じて、身近な話題を素材としながら、法学に関する基礎的な知識・思考力を涵養する。						
授業の進行予定及び進め方	<p>授業計画</p> <p>第1回 法学を学ぶにあたって 第2回 法と習俗 第3回 法と習俗 第4回 法と道徳 第5回 法と道徳 第6回 法と宗教 第7回 法規範の特色 第8回 法源 制定法 第9回 法源 慣習法 第10回 法源 判例法 第11回 法源 条理・学説 第12回 法の適用 - 紛争解決のメカニズム 第13回 法の解釈 法解釈の意義</p>						
授業に関連するキーワード	法	法	法	法	法	法	法
	社会規範	法源	法源	法源	法源	法源	法源
	法の適用						
成績評価の方法	100点を満点として、期末試験（80％）の成績と学習への積極性等に基づく平常点（20％）の合計60点以上を合格とする。						
教科書・参考書等	【教/参の別】	【書籍名】			【著者】	【出版社】	【出版年】
	教科書	『法学入門〔第3版〕』			五十嵐清	悠々社	2005
	参考書	『ブレップ 法学を学ぶ前に』			道垣内弘人	弘文堂	2010
教科書・参考書等に関する記述欄	あらかじめ教科書を読んでから授業に出席すること。						
自由記述欄	受講の際は、六法（小型のものでよい）を必ず持参すること。						

科目コード	51182003			単位	2	時間数	30
授業科目名	日本国憲法C			開講学期等	後期	時間割	木3・4
授業科目名英字	Constitutional Law:C						
備考	定員を上回る場合は学校教育課程を優先とする			授業の形式	講義	必修・選択	選択
				受講対象学生	全学部 1・2・3・4年		
内容的に密接に関係する授業科目	くらしと法A・B			履修する際に前提とする授業科目			
【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】
小野寺倫子	教育文化学部	教文3-328	018-889-2659				
オフィスアワー	【曜日及び時間】	月曜日11:00~12:00		【場所】	教文3-328		
授業の目的				授業の到達目標			
日本国憲法の基礎的理解				1) 憲法上の基本的な諸概念を説明できる。 2) 日本国憲法の基本構造を説明できる。 3) 各種の憲法問題の基礎を的確に把握できる。			
カリキュラム上の位置付け	社会科学の領域の基礎となる科目である。						
授業の概要	憲法の理念と現実という問題を意識しながら、日本国憲法の入門的解説を行う。						
授業の進行予定及び進め方	授業計画 第1回 インTRODクシヨ 第2回 憲法の基本原理 第3回 基本的人権総論 第4回 人権の享有主体 第5回 表現の自由 第6回 学問の自由 第7回 信教の自由 第8回 財産権 第9回 職業選択の自由 第10回 人身の自由 第11回 社会権・参政権 第12回 平等・包括的基本権 第13回 統治機構総論・代表民主制 第14回 平和主義						
授業に関連するキーワード	日本国憲法	国民主権		基本的人権			
	平和主義	統治機構					
成績評価の方法	学期末試験の結果(80%)及び学習態度(20%)による。総合60%以上を合格とする。						
教科書・参考書等	【教/参の別】	【書籍名】		【著者】	【出版社】	【出版年】	
	教科書	『憲法入門』		長谷部恭男	羽鳥書店	2010	
	参考書	『ブレップ 法学を学ぶ前に』		道垣内弘人	弘文堂	2010	
教科書・参考書等に関する記述欄	受講の際は、六法(学習の小型のものでよい)を持参すること。						
自由記述欄							

科目コード	51192002			単位	2	時間数		
授業科目名	現代社会と政治B			開講学期等	後期	時間割	火3・4	
授業科目名英字	Modern Society and Politics B							
備考				授業の形式	講義	必修・選択	選択	
				受講対象学生	全学部1～4年			
内容的に密接に関係する授業科目				履修する際に前提とする授業科目	特になし			
【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	
中澤 俊輔	教育文化学部	教育文化学部3号	018-889-2658					
オフィスアワー	【曜日及び時間】	火曜日昼休み			【場所】	教育文化学部3号館327		
授業の目的				授業の到達目標				
政治学の基礎を学びながら、現代政治についての理解を深める。				政治学の基礎的な知識と考え方を習得する。 現代社会における政治的な事象について考察する力を養う。 現代の日本政治と国際政治を、歴史を踏まえて理解する。				
カリキュラム上の位置付け	政治学の基本的な考え方を学んでいただきます。							
授業の概要	前半は現代政治を構成する概念と制度について説明します。第1～8回（デモクラシー、リーダーシップ、選挙、議会、政党、官僚、メディア） 後半は日本政治と国際政治の歴史と実態について説明します。第9～15回（戦後政治の起源、55年体制、政治改革と政権交代、地方自治、国際秩序、グローバル化）							
授業の進行予定及び進め方	第1回 オリエンテーション 第2回 デモクラシー 第3回 リーダーシップ 議院内閣制と大統領制 第4回 選挙 第5回 議会 第6回 政党 第7回 官僚 第8回 メディアと世論 第9回 日本政治 戦後政治の起源 第10回 日本政治 55年体制（上） 第11回 日本政治 55年体制（下） 第12回 日本政治 政治改革と政権交代 第13回 日本政治 地方自治 第14回 国際政治 国際秩序 第15回 国際政治 グローバル化							
授業に関連するキーワード	デモクラシー			リーダーシップ		選挙		
	議会			政党		官僚		
	メディア			日本政治		国際政治		
成績評価の方法	期末試験（70％）、授業内レポート（30％）							
教科書・参考書等	【教/参の別】	【書籍名】			【著者】	【出版社】	【出版年】	
	参	『政治学』			川出良枝・谷口将紀編	東京大学出版会	2012	
	参	『はじめて出会う政治学第3版』			北山俊哉・久米郁男・有斐閣		2009	
教科書・参考書等に関する記述欄	授業は毎回配布するレジユメに沿って行います。上記以外の参考文献はそのつど紹介します。							
自由記述欄								

科目コード	51192004			単位	2	時間数	30時間	
授業科目名	日本と諸外国の政治 - 比較政治 -			開講学期等	後期	時間割	火5・6	
授業科目名英字	Comparative Politics							
備考				授業の形式	講義	必修・選択	選択	
				受講対象学生	全学部			
内容的に密接に関係する授業科目				履修する際に前提とする授業科目				
【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	
中村裕	国際資源学部	教育文化3 - 332	内線2604					
オフィスアワー	【曜日及び時間】	月曜日11時～12時		【場所】	教育文化3 - 332			
授業の目的				授業の到達目標				
社会科学の基礎としての比較政治の習得。				1. 社会科学の1分野としての政治学の基礎の習得。 2. 現時点の政治の歴史的背景を考察する視点の獲得。 3. 外国の政治状況を自分なりに整理する方法論の基礎の習得。				
カリキュラム上の位置付け								
授業の概要	ロシアと中国との政治の比較を通して社会科学の方法論を学ぶ。							
授業の進行予定及び進め方	1回目～2回目 現時点のロシアと中国。権威主義体制、脱社会主義、社会主義体制堅持。 3回目～8回目 ソ連社会主義と中国社会主義(スターリンと毛沢東)。 9回目～10回目 社会主義体制の改革：ゴルバチョフと鄧小平(政治的民主化、経済改革)。 11回目～12回目 脱社会主義のロシア：エリツィンからプーチンへ。 13回目～14回目 社会主義体制堅持の中国：ポスト鄧小平の動向。 15回目 冷戦後の国際政治におけるロシアと中国。 ・ 政権強化にとって必要な平和的な国際環境。 ・ 米国主導の国際社会の安定に対する反発・違和感。 ・ 大国意識、多民族国家のなかでのナショナリズム。							
授業に関連するキーワード	社会主義	政治改革			市場原理の導入			
	体制転換	国家的統一			権威主義体制			
	権力党	民族問題			冷戦後の国際社会			
成績評価の方法	基本的に試験							
教科書・参考書等	【教/参の別】	【書籍名】			【著者】	【出版社】	【出版年】	
	参考書	『ユーラシア地域大国の統治モデル』			松里公孝他	ミネルヴァ書房	2013	
	参考書	『開発主義の時代へ』			高原明生他	岩波新書	2014	
教科書・参考書等に関する記述欄								
自由記述欄								

科目コード	51222002			単位	2	時間数	30
授業科目名	社会と家族 - 家族社会学の基礎 -			開講学期等	後期	時間割	水3・4
授業科目名英字	Society and Family B: the Basis of Family Sociology						
備考				授業の形式	講義	必修・選択	選択
				受講対象学生	全学部 1～4年		
内容的に密接に関係する授業科目	現代社会論			履修する際に前提とする授業科目			
【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】
石 沢 真 貴	政策科学	教文3-331	018-889-2616				
オフィスアワー	【曜日及び時間】	火曜16:10～17:40		【場所】	教文3-331		
授業の目的				授業の到達目標			
<p>家族に関する諸問題を、家族とは何かを問いつつ考察することで、現代社会への関心を高める。</p>				<p>家族に関する基礎知識を身につける。 社会集団としての家族の構造や機能を理解する。 家族をとりまく社会変化を理解する。 家族に関する社会制度を理解する。</p>			
カリキュラム上の位置付け	社会科学的な視角、考察力を養うための基礎的な科目 社会学、特に家族社会学的内容						
授業の概要	家族に関わる現代的諸問題について、家族とは何かを多角的に考察しつつ講義する。						
授業の進行予定及び進め方	1 ガイダンス 2 家族の定義 3 家族に関する基礎的概念 4 家族と法 5 家族に関する法の近年の動向 6 近代社会と「近代家族」 7 世帯構造の変化でみる現代家族 8 世帯構造変化の要因 9 家族機能の変化と家族問題 10 社会制度としての結婚 11 結婚に関する近年の動向 12 離婚・再婚に関する近年の動向 13 夫婦関係と性別役割分業 14 女性と労働 15 現代家族のゆくえ						
授業に関連するキーワード	家族		社会学		社会制度		
	近代		ジェンダー				
成績評価の方法	・ 授業の最後にレポートもしくは記述試験により成績を評価し、原則として再試験や追試験は行わない。 ・ 授業内の小レポート等の提出物を総合的な評価の際に考慮する場合もある。 ・ 総合的な評価の結果が60点未満の場合は不合格Dとする。						
教科書・参考書等	【教/参の別】	【書籍名】		【著者】	【出版社】	【出版年】	
教科書・参考書等に関する記述欄	・ 教科書は使用しない。 ・ 必要に応じて参考文献を紹介したり、プリント資料を配布したりする。						
自由記述欄							

科目コード	51222003			単位	1	時間数	8
授業科目名	男女共同参画社会論			開講学期等	後期前半	時間割	月3・4
授業科目名英字	Theory of Gender equality						
備考				授業の形式	講義	必修・選択	選択
				受講対象学生	全学部		
内容的に密接に関係する授業科目	特になし			履修する際に前提とする授業科目	特になし		
【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】
渡部育子	教育文化学部	3 - 325	2615				
オフィスアワー	【曜日及び時間】	木曜日 7・8時限(用アポイント)		【場所】	教育文化学部3 - 325		
授業の目的				授業の到達目標			
男女共同参画を推進する意義を学修し、社会人としてのキャリア形成やワークライフバランスの意識を涵養する。				1. 男女共同参画推進が社会理念となったことの意味を理解できる。 2. 自らが選択するワークライフバランスの下で仕事に邁進することの意味を理解できる。			
カリキュラム上の位置付け							
授業の概要	わが国の男女共同参画の実情と課題に関して、各界の講師がオムニバス形式で講義する						
授業の進行予定及び進め方	第1回 秋田大学の男女共同参画推進について 第2回 労働行政から見る男女共同参画 第3回 秋田県の男女共同参画推進事業 第4回 企業における男女共同参画の取組 第5回 男性の家事、育児 第6回 ジェンダーと男女共同参画 第7回 秋田大学若手女性研究者の提言 第8回 予備日						
授業に関連するキーワード	ワークライフバランス		ダイバーシティ		男女共同参画		
成績評価の方法	出席を重視する。 毎回、講義の内容および講義についての感想を書いて提出したリポートを総合的に評価する。						
教科書・参考書等	【教/参の別】	【書籍名】		【著者】	【出版社】	【出版年】	
教科書・参考書等に関する記述欄							
自由記述欄	講師の都合により、各回の内容が入れ替わる場合がある						

科目コード	51232006			単位	2	時間数	30
授業科目名	人間関係論 - 社会の中での私 -			開講学期等	後期	時間割	木5・6
授業科目名英字	Human Relations II						
備考	50名程度以内			授業の形式	講義・学生参加型	必修・選択	選択
				受講対象学生	全学部・1～2年生		
内容的に密接に関係する授業科目	人間関係論			履修する際に前提とする授業科目	原則として人間関係論 の受講者を対象とした科目である		
【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】
佐々木久長	医学部	C-115	018-884-6506				
オフィスアワー	【曜日及び時間】	木曜日15:00-15:30		【場所】	C-115		
授業の目的				授業の到達目標			
<p>集団や社会の中での自分の存在を振り返り、他者との意見交換を通して様々な社会的事象に対する意見を形成することができるようにする。</p>				<p>1. 人間関係に関するテーマについて、自分の考えをまとめることができる 2. 自分の考えを伝え、相手の考えを受けとめることができるようになる 3. 個人と社会の関係についての基礎的理論を理解する</p>			
カリキュラム上の位置付け	社会や集団という視点から人間関係を考え、話し合いを通して意見をまとめていくプロセスを体験的に学習する科目である						
授業の概要	毎回テーマを提示して、それについて話し合い、意見をまとめて発表する						
授業の進行予定及び進め方	<p>1. 効果的な自己紹介の仕方 2. ファシリテーションの技術</p> <p>以下のテーマを取りあげる予定です ・家族と友人の共通点と相違点 ・楽しさ、喜び、嬉しさ、幸せの区別 ・いのちは一番大切なものか ・少子高齢社会をどう生きるか ・異性への好意の効果的な伝え方 ・いじめは無くせるか ・秋田県の課題は何か - 秋田を元気にする会社を作ろう ・人はなぜ働くのか ・生きる意味とは何か ・異性への効果的な好意の伝え方</p>						
授業に関連するキーワード	社会心理学		ソーシャル・キャピタル		討論		
	意見交換						
成績評価の方法	試験を行います（説得力・伝達力のある意見をまとめることができるか） グループでの活動があるので、特別な理由がない限り欠席は認めない						
教科書・参考書等	【教/参の別】	【書籍名】		【著者】	【出版社】	【出版年】	
教科書・参考書等に関する記述欄	教科書は特になし参考書等は授業中に紹介する						
自由記述欄							

科目コード	51132001	単位	2	時間数	30
授業科目名	文学論 - 教養読書基礎講義 -	開講学期等	後期	時間割	金5・6
授業科目名英字	Lecture on Literature B:Lecture on liberal reading				
備考	受講者受け入れ人数の上限を50とする。授業初回に出席した人数が50を超えた場合は抽選を行う。	授業の形式	講義	必修・選択	選択
		受講対象学生	全学部 1~4年		
内容的に密接に関係する授業科目	特になし	履修する際に前提とする授業科目	特になし		
【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】
成田 雅樹	教育文化学部	教3-139・2531	2531		
オフィスアワー	【曜日及び時間】	火水金16:10~	【場所】	教文3-139 (電話: 889-2531)	
授業の目的			授業の到達目標		
<p>(1) 映像化された作品と原作の文章表現との比較によって、文学作品をストーリーやプロット、レトリックの面から分析する方法を学習し、文学の本質について考察する。</p> <p>(2) 文学作品を作者の生き方と比較して分析する方法を学習することを通して、文学の本質について考察する。</p>			<p>(1) 原作の文章表現及び映像化された作品の構造を分析し、文学作品の様々な「しかけ」を理解することができる。</p> <p>(2) 原作と映像化された作品との比較を通して、文学的表現の本質について論ずることができる。</p> <p>(3) 一般的な近代文学作品と児童文学作品の構造及び表現上の違いについて論ずることができる。</p>		
カリキュラム上の位置付け	目的主題別としては「学問の方法」を主とする科目。また、教養基礎教育の目標2と関わって、文学作品を様々な方法で分析することを通して、文学を通して人間や文化を考察していく契機とするものであり、かつ発表、討論及び論文作成の基礎力を養おうとするものである。				
授業の概要	翻案(映画)と比較したり作者の伝記的資料を参照したりして作品の解釈を深め、レトリック等の文学的表現とその読み取り方を理解し、ミニレポートにまとめていく。				
授業の進行予定及び進め方	<p>1(10/2)回...オリエンテーション(本授業の特色・進め方解説、批評理論の概説、ミニレポート「私にとっての文学」)</p> <p>2(10/9)~4(10/23)回...明治期の文学として、夏目漱石の作品とその映像の比較検討、及び作者夏目漱石と作品の関わりについて考察する。「それから」を扱う。ミニレポート(映像と原作の比較・作家の人生と作品の比較)</p> <p>5(10/30)~6回(11/6)...大正期の文学として、芥川龍之介の作品と作者芥川龍之介との関わりについて考察する。「トルコ」「屋敷楼」を扱う。ミニレポート(作家の人生と作品との比較・長編と短編との比較・2作品の比較)</p> <p>7(11/13)~8(11/20)回...大正から昭和期の児童文学として、宮沢賢治の作品とその映像の比較検討、及び作者宮沢賢治と作品の関わりについて考察する。「注文の多い料理店」「セロ弾きのゴーシュ」を扱う。ミニレポート(映像と原作との比較・作家の人生と作品との比較・児童文学と成人向け作品との比較・2作品の比較)</p> <p>9(11/27)回...昭和期の文学として、太宰治の作品と作者太宰治との関わりについて考察する。「人間失格」を扱う。ミニレポート(作家の人生と作品との比較・例えば「走れメロス」との比較)</p> <p>10(12/4)~11(12/11)回...昭和期の児童文学として、新美南吉の作品と作者新美南吉との関わりについて考察する。「ごんぎつね」を扱う。ミニレポート(作家の人生と作品との比較・以前の読後感との通時的比較)</p> <p>12(12/18)~13(12/25)回...現代な文学作品として、よしもとばななの作品とその映像の比較検討、及び作者よしもとばななと作品の関わりについて考察する。「つぐみ」を扱う。ミニレポート(映像と原作との比較)</p> <p>14(1/22)~15(1/29)回...現代の児童文学作品として、立松和平のいわゆる命シリーズの比較検討、及び作者立松和平と作品の関わりについて考察</p>				
授業に関連するキーワード	同化と異化及び通時的比較と共時的比較	観想的態度	ストーリーとプロット及びアイロニーとリアリ		
	解釈と物語スキーマ	視点及びシーンとサマリー	芸術的価値と内容的価値及び気分情調とアレゴ		
	表層と深層及びメタファーとテーマ				
成績評価の方法	授業中の発表や討論などの状況と学習態度、及び授業中のノート・カード類とレポートの内容などを総合して評価する。出席と提出物の提出回数(作家ごとのミニレポート7枚等と試験レポート1枚)が2/3に満たない者は不可とする。この条件を満たしかつ授業で解説した内容を理解している場合: C、授業内容をふまえた自身の考察が到達目標に達している場合: B、Bの者で提出物の内容が到達目標に十分達していると認められる場合: A、Aの者で内容理解や考察が特に優れている場合: S。配点は概ね、授業中の取組3.5点、提出物の内容3.5点、試験レポートの内容3.0点とする。総合6.0点以上を合格(C以上)とする。追試・再試は行わない。				
教科書・参考書等	【教/参の別】	【書籍名】	【著者】	【出版社】	【出版年】
教科書・参考書等に関する記述欄	「それから」「人間失格」「つぐみ」以外の授業中に読むテキスト(原作の文章)及び資料は印刷して配布するが、図書館で借りるか文庫本を書店で購入することを勧める。また、作家の伝記的内容については、新潮社「文豪ナビ」シリーズが廉価で入門者向きである。				
自由記述欄	ミニレポートは、各回の授業をふまえて、各回のシラバスにあるテーマで家庭学習した結果をまとめて翌週に提出する。「それから」「人間失格」「つぐみ」は事前に読んでおくこと。また、各作家のその他の作品を随時読み、授業中の発表に備えることが望ましい。				

科目コード	51132002		単位	2	時間数	30	
授業科目名	日本の近代文学		開講学期等	後期	時間割	水5・6	
授業科目名英字	Modern Japanese Literature						
備考			授業の形式	講義	必修・選択	選択	
			受講対象学生	全学部1-3年			
内容的に密接に関係する授業科目	日本文学概論、日本文学論		履修する際に前提とする授業科目	特になし			
【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】
山崎義光	教育文化学部教育実践講	教文3-131	018-889-2610				
オフィスアワー	【曜日及び時間】	水曜日14:30-16:00		【場所】	教文3-131(山崎研究室)		
授業の目的				授業の到達目標			
日本の近代文学を対象に、「近代」化する日本の社会のなかで、人・生きもの・物といった対象が、どのように描かれてきたかを考えます。「文学」のなかに、時代・社会・思想・倫理・自己意識などの諸要素が、どのような表現方法によって描かれ、価値づけられているか。具体的な作品の精読を通じて考えます。				1. 作品の(発表された、描かれた)時代背景を、日本の近代史のなかで位置づけて説明できる。 2. 時代・社会的背景・思想・倫理・自意識などについて、知識と作品を関連づけた読解によって解釈することができる。 3. 『こころ』の特質、読みどころについて自分の観点を設けて説明できる。 4. 自分が感じ考えたことを表現することができる。			
カリキュラム上の位置付け	主題別科目「人間と文化」の一つで、文学という言葉の「文化」を通じて「人間」がどのように表現されたかを考えます。そこには現在と異なる、あるいは通じる、どのような問いかけがあったのかを考える科目です。						
授業の概要	高校国語教科書の定番教材であり、部分的にはよく読まれている小説『こころ』を精読します。 『こころ』が朝日新聞に連載されたのは、大正3年(1914年)。今からほぼ100年前のことです。この小説には、さまざまに当時の社会的な制度・文物・慣習・価値観などが書き込まれています。今、現在読んでいる自分の常識や価値観をあてはめて読む前に、作品に書き込まれた社会背景について知り、作品を精読して考えます。						
授業の進行予定及び進め方	第1-2回 漱石の生きた時代 第3-6回 『こころ』「上 先生と私」 第7回 『こころ』「中 両親と私」 第8回 エッセイ・コンテスト1 第9-13回 『こころ』「下 先生と遺書」 第14回 エッセイ・コンテスト2 第15回 まとめ (進め方) 1) 『こころ』精読 ・『こころ』の全編を読んでいることを前提とします。解説を聞くのではなく、受講者自らが読み解釈することが授業の中心課題です。 ・事前学習としてテキストを読み、各回の課題について考えてきたことを小テストします。それをふまえた講義形式で進めます。 ・そのほか、講義内容を理解するに資する小テストを、不定期で行うことがあります。 ・作品読解と関連する事項に関する最終レポートを必須とします。						
授業に関連するキーワード	日本文学	近代		小説			
	夏目漱石	『こころ』		歴史			
	思想	社会		エッセイ			
成績評価の方法	小テスト(50%、目標の1、2)およびレポート(30%、目標の2および3)、エッセイ(20%、目標4)を総合して評価します。ただし、レポートを提出していない場合には不合格とします。						
教科書・参考書等	【教/参の別】	【書籍名】		【著者】	【出版社】	【出版年】	
	参	『漱石のリアル 測量としての文学』		若林幹夫	紀伊國屋書店	2002	
	参	『海辺の恋と日本人』		瀬崎圭二	青弓社	2013	
	参	『夏目漱石『こころ』をどう読むか』		石原千秋編	河出書房新社	2014	
教科書・参考書等に関する記述欄	「教科書」は、夏目漱石『こころ』所載本とします。出版社、文庫本・単行本の別は問いません。ただし、授業時に必ず持参してください。						
自由記述欄							

科目コード	51142004			単位	2	時間数	30
授業科目名	日本語表現の諸相			開講学期等	後期	時間割	木5・6
授業科目名英字	Various Aspects of Japanese Expression						
備考				授業の形式	講義・学生参加型	必修・選択	選択
				受講対象学生	全学部 1～4年		
内容的に密接に 関係する授業科目	日本語学概論、日本語文化論			履修する際に前提 とする授業科目	特になし		
【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】
大橋純一	日本・アジア文化講座	3-135	018-889-2614				
オフィスアワー	【曜日及び時間】	水曜日 13:00-14:20		【場所】	研究室(3-135)		
授業の目的				授業の到達目標			
日本語および日本語表現に関する基礎知識を学び、自らの言語生活へのアプローチを通してその効用と課題を自覚する。それらを踏まえた言語活動(読む・聞く・話す・書くの4技能)を具体的に実践し、各技能の力を涵養することを目的とする。なお授業では、受講者どうしの議論、自己内省、調査発表等を随時行い、日本語学的な考察への橋渡しという側面も積極的に視野に入れていく。				1)日本語および日本語表現に関する基礎知識を習得し、その概要を説明できる。 2)得られた知見に基づき、事物・事象を適切に表現できる。 3)日本語表現の特質を自らの実践(読む・聞く・話す・書くの4技能)を踏まえて説明できる。			
カリキュラム上の 位置付け	教養基礎教育の主題別科目として、日本語および日本語表現に関する知見を深め、技法を習得し、それによる具体的な実践を行うことに力点を置く。また専門の日本語文化論、日本語学への導入としての位置づけを持つ。						
授業の概要	情報化社会の中にあって、自分自身を的確に表現する力、発信された情報の意味を読み解く力がますます重要性を増している。この授業では、それらの力を確立することを目指し、まずは日本語表現の諸相(実態と技法)を実例にあたって体得することから始める。そのために、日常の言語生活に立ち返って調べ、他者とも議論し、発表を行うことで、日本語やそれによる表現法に関する知見を深めていく。またそれらの基礎知識を踏まえ、具体的な“表現”の実践を行い、いわゆる言葉の4技能に通底する力を養っていく。						
授業の進行予定 及び進め方	授業形態としては「講義」の立場をとるが、実際には受講者自身あるいは受講者どうしで考察を深めつつ、以下に掲げる各課題に取り組んでいくことを主体とする。 1. ガイダンス 授業の内容とその進め方 2～4. 言葉の限界と可能性 日常の言語生活を通して 5～7. 言葉と社会との関わり 言語の実態調査に即して 8. 話し言葉と書き言葉 自己紹介および具体的な事例を通して 9. 論述形式 パターンの類型化と各論述パターンの功罪 10. レトリック 実例から学ぶ表現の妙 11. 小論文 「8」～「10」を踏まえての実践 12. 対話のケーススタディ 場面設定に基づいた実践 13. プレゼンテーション パワーポイントによる発表 14. いい表現とは 表現内容なのか表現技法なのか 15. まとめ						
授業に関連する キーワード	日本語表現		話し言葉		書き言葉		
	論述形式		レトリック		対話		
	プレゼンテーション						
成績評価の方法	授業内での課題(小論文・ミニレポート・口頭発表・ディスカッション・プレゼンテーション)への取り組み(50%)、学期末に課すレポート兼筆記試験の内容(50%)を総合して評価し、60%以上を合格とする。なお欠席5回の時点で評価はDとする。						
教科書 ・ 参考書等	【教/参の別】	【書籍名】		【著者】	【出版社】	【出版年】	
教科書・参考書等 に関する記述欄	各回のテーマに即してプリントやパワーポイントを用いる。						
自由記述欄							

科目コード	51242005			単位	2	時間数	30時間
授業科目名	教育学 - 現代社会と子育て支援 -			開講学期等	後期	時間割	月3・4
授業科目名英字	Pedagogy : Modern Society and Child care support						
備考				授業の形式	講義および演習	必修・選択	選択
				受講対象学生	全学部1～4年		
内容的に密接に関係する授業科目				履修する際に前提とする授業科目			
【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】
奥山順子	こども発達・特別支援講	教育文化学部5-	018 889 2677	瀬尾知子	こども発達・特別支援講	教育文化学部5-	018-889-2896
オフィスアワー	【曜日及び時間】	水7.8限(奥山)木5.6限(瀬尾)		【場所】	5-506(奥山) 5-511(瀬尾)		
授業の目的				授業の到達目標			
現代社会における家族,特に乳幼児を育てる家族と地域社会とのかかわりやその支援の課題を考える。 子育て支援におけるこれからの保育・学校教育・社会教育の関係やそれぞれの役割について理解する。				家庭を取り巻く社会状況の変化を理解し,それに応じた子育て家庭への支援のあり方について考察する。 地域社会・家庭・保育施設とのかかわりを視点として,現代の子育てや保育の課題をとらえて考察する。			
カリキュラム上の位置付け	2014年度以降入学者のうち保育士資格取得登録者は必修						
授業の概要	現代社会における子育てや教育,各種データや資料をもとに考察し,現代的な課題を通して子どもの発達や教育の本質を問う。						
授業の進行予定及び進め方	【授業進行予定と進め方】 1. ガイダンス・子育てと現代社会 【奥山】 2. 家庭の変化と子どもの価値 地域社会の教育機能 家庭と保育施設や学校との関係 【奥山】 3. 子どもが育つ環境 子どもと大人の関係 【奥山】 4. 子どもが育つ環境 育てる者と育つもの 【奥山】 5. 家庭生活を取り巻く社会的状況 男女共同参画社会とワークライフバランス 【瀬尾】 6. 子育て支援の体制 子育て支援にかかわる法体系と社会資源 【瀬尾】 7. 地域子育て家庭への支援 地域子育て支援の意義と地域子育て支援拠点事業 【瀬尾】 8. 「子育て支援」の目的・現状と課題 【奥山】 9. 地域の実情と子育て事情 多様な課題と可能性 【奥山】 10. 家庭支援の今日的課題 【奥山】 11. 母親と子育て 育児不安と育児ストレス 【瀬尾】 12. 父親と子育て アロマザリングと子育ての社会化 【瀬尾】 13. 特別な支援を必要とする子ども・家庭への支援 【瀬尾】 障がいをもつ子どもへの支援の実情						
授業に関連するキーワード	教育	子育て支援			社会		
成績評価の方法	レポート70% 授業中の課題30%						
教科書・参考書等	【教/参の別】	【書籍名】			【著者】	【出版社】	【出版年】
	教科書	『保育所保育指針解説書』			厚生労働省	フレーベル館	2008
	参考書	『子育て支援の心理学』			無藤隆・安藤智子	有斐閣	2011
	参考書	『育てられるものから育てる者へー関係発達』			鯨岡俊	NHKブックス	2002
教科書・参考書等に関する記述欄							
自由記述欄							

科目コード	51122004			単位	2	時間数	30
授業科目名	芸術と文化 B - 西洋美術の歴史 -			開講学期等	後期	時間割	木3・4
授業科目名英字	Art and Culture IIB:History of Western Art						
備考				授業の形式	講義	必修・選択	選択
				受講対象学生	全学部 1～4年		
内容的に密接に関係する授業科目				履修する際に前提とする授業科目			
【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】
佐々木千佳	教育文化学部・地域文化	教文3-126	2605				
オフィスアワー	【曜日及び時間】	火曜 5・6時限		【場所】	教文3-126		
授業の目的				授業の到達目標			
古代ギリシアから現代までの西洋美術の歩みを概観し、各時代に特有の様式や作品のなりたちを各時代背景とともに学ぶ。造形文化が人間の世界に対する眼差しをあらわし、歴史とともに変化するものであることを理解する。				1) 西洋美術史の基礎知識を習得し、作品の様式を見分けることができる。 2) 西洋古典文化とキリスト教に関する基礎知識を身につけ、作品が生み出された文化的背景を理解することができる。 3) 美術の歩みを具体的に知ることを通じ、作品が伝える意味や役割とともに時代の芸術観を捉えることができる。			
カリキュラム上の位置付け	西洋の具体的な美術作品を例に、基本的な美術史の流れを知ることにより、一般教養としての芸術の理解を助け西洋文化にアプローチする方法を身につけようとするものです。						
授業の概要	古代ギリシアから現代までの西洋美術史の流れを概観する。基本的に一講義につき一つの時代と様式についてスライドを見ながら作品の内容を説明する。						
授業の進行予定及び進め方	第1回 0. イントロダクション 第2回 1. 古代ギリシア・ローマ美術 第3回 2. 初期キリスト教美術と中世の美術 第4回 3. 後期ゴシック美術とプロト・ルネサンス美術 第5回 4. 初期ルネサンス美術 第6回 5. 盛期ルネサンス美術(1) フィレンツェ、ローマ 第7回 盛期ルネサンス美術(2) 第8回 初期～盛期ルネサンス美術(3) ヴェネツィア、その他の地域 第9回 6. 北方ルネサンス美術 第10回 7. マニエリスム 第11回 8. バロック美術 第12回 9. ロココから新古典主義へ 第13回 10. 19世紀の美術(ロマン主義・写実主義・印象主義) 第14回 11. 19世紀末～20世紀の美術(後期印象派以降) 第15回 12. 現代の美術						
授業に関連するキーワード	西洋美術		様式		主題		
	芸術家						
成績評価の方法	平常点(出席およびレスポンス・カード:自身の意見・疑問点などの簡潔なまとめ)50%と期末レポート50%						
教科書・参考書等	【教/参の別】	【書籍名】		【著者】	【出版社】	【出版年】	
	参	『増補新装 カラー版西洋美術史』		高階秀爾監修	美術出版社	2002年	
教科書・参考書等に関する記述欄	参考図書については授業中に適宜指示するが、講義と並行して西洋美術の通史を参照することが望ましい(高階秀爾監修 増補新装『カラー版西洋美術史』、美術出版社、2002年など)。						
自由記述欄	講義時間外にも図書館等で美術全集などの図版を積極的に見ると同時に、展覧会などの機会を利用して実際の美術作品にふれ、関心の幅を広げるよう心がけてほしい。						

科目コード	51222006			単位	1	時間数	15
授業科目名	人権と共生 - ボランティア活動論 -			開講学期等	後期後半	時間割	水5・6
授業科目名英字	Human Rights:lecture on Volunteer Activities						
備考				授業の形式	講義	必修・選択	選択
				受講対象学生	全学部 1～4年		
内容的に密接に関係する授業科目				履修する際に前提とする授業科目			
【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】
佐々木久長（責）	医学部保健学科	保健学科C-115	018-884-6506				
オフィスアワー	【曜日及び時間】			【場所】			
授業の目的				授業の到達目標			
学生がボランティア活動を通じて地域社会の課題に積極的に取り組める基礎を養成する。				ボランティア活動の意義と必要性を理解し、自らもその活動に参加するという行動意欲を惹起する。			
カリキュラム上の位置付け	社会の一員として、共同で社会を支えるための基本的考え方、具体的行動喚起を促す科目として重要な位置付けである。						
授業の概要	県内外のボランティア活動団体の現状と課題、そして期待について、県内のボランティア・NPOの実践者から率直に提案していただく。授業担当者が決まり次第掲示により周知する。 詳細については、決定次第掲示するので、掲示に注意してください。						
授業の進行予定及び進め方	1回目 ボランティア活動とは...生涯学習の視点から 2回目 ボランティアとNPO 3回目 被災地支援の基本 4回目 精神障がい者を支援するボランティア活動 5回目 若者の自立を支援するボランティア活動 6回目 子どもにかかわるボランティア活動 7回目 病気や自殺で身近な人を喪った人を支援するボランティア活動 8回目 ボランティアという生き方 (1～7回目は外部講師の予定、順番は講師の都合で変更になることがあります)						
授業に関連するキーワード	ボランティア		社会貢献		NGO		
	NPO		いのち				
成績評価の方法	毎回授業終了後に提出するレポートによる。						
教科書・参考書等	【教/参の別】	【書籍名】		【著者】	【出版社】	【出版年】	
教科書・参考書等に関する記述欄	教科書は特に使用しない。						
自由記述欄							

科目コード	51142006		単位	2	時間数	30	
授業科目名	多文化コミュニケーション入門 - 他者の文化を発見		開講学期等	後期	時間割	木7・8	
授業科目名英字	Invitation to Multicultural Communication II						
備考	40名以内		授業の形式	講義・学生参加型	必修・選択	選択	
			受講対象学生	全学部 1・2(3・4)年			
内容的に密接に関係する授業科目	「多文化コミュニケーション入門I」「日本文化入門I/II」「多文化間交流論I/II」「日本教育学入門		履修する際に前提とする授業科目	なし			
【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】
佐々木良造	国際交流センター	般1-2階 205	018-889-2938				
オフィスアワー	【曜日及び時間】	金 08:50-10:20		【場所】	研究室(般1-2階) 205		
授業の目的				授業の到達目標			
母語あるいは文化的背景を異にする者の違いを理解、受容するためには話し合わなければならない。この科目では意見を集約するタイプの話し合いを通じて、違いの理解、受容の過程を体験し、異文化理解の一端となることを目的とする。				(1)母語あるいは文化的背景を異にする者の違いを理解、受容する態度を涵養する。 (2)他者と協力して課題を進められるようになる。 (3)論理的な話し合いの展開ができるようになる。			
カリキュラム上の位置付け	ここでは、母語・文化的背景を異にする者たちが、協力して課題に取り組む。その過程で、異なる意見を持つ人と円滑に意見が交換できるようになること、他者と協力して課題を進めることができるようになる。						
授業の概要	学生グループによる話し合い、話し合いの結果の発表、相互コメントを行う。話し合いに積極的に参加し、合意形成に貢献できる態度が望ましい。						
授業の進行予定及び進め方	1) オリエンテーション 2) ~ 7) グループでの話し合い 8) 十字モデルとは 9) ~ 13) 十字モデルを利用した話し合い 14) 最終発表および最終レポート提出 15) レポートの相互評価・自己評価						
授業に関連するキーワード	多文化	コミュニケーション			話し合い		
	異文化理解	十字モデル					
成績評価の方法	1) 授業中の課題 60% 2) 中間発表 20% 2) 最終課題 20%						
教科書・参考書等	【教/参の別】	【書籍名】	【著者】	【出版社】	【出版年】		
教科書・参考書等に関する記述欄	適宜プリントを配布する。						
自由記述欄	・受講者数によって、授業の進行予定及び進め方を変更する場合がある。						

科目コード	51142008		単位	2	時間数	30	
授業科目名	多文化間交流論 - 異文化コミュニケーションの実		開講学期等	後期	時間割	水5・6	
授業科目名英字	Putting Cross-Cultural Communication into Practice						
備考	一部集中講義, 留学生も合わせて30名程度 通常の講義と11月の合宿の両方に参加できる学生のみ		授業の形式	演習・学生参加型	必修・選択	選択 elective	
			受講対象学生	Any student including international students			
内容的に密接に関係する授業科目	他の国際交流関連科目		履修する際に前提とする授業科目	特になし			
【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】
宮本律子	教育文化学部	教3-229	018-889-2688				
オフィスアワー	【曜日及び時間】	水曜日14:30-16:00 Wednesday		【場所】	宮本研究室(教3-229)		
授業の目的				授業の到達目標			
Course Objective The objective of the course is to improve cross-cultural communication skills through multi-task group work. Focus will be on change of awareness from an ethnocentric toward an ethno-relative state of understanding and acceptance of cultural differences. Comparison between Japanese and other communication styles will be often discussed.				Course Goals By the end of this course, students should be able to: -learn cultural and social implications of Japanese communication styles. -compare and contrast the Japanese ways of communicating with their own. -understand their own ways of communication. -find ways to cope with communication conflicts. -be able to express themselves in a comfortable way in English (for non-speakers of English)			
カリキュラム上の位置付け							
授業の概要	Course Description The issues covered in the course intends to help students identify and appreciate the beliefs, values, and norms of their own culture, and demonstrate increasing ability to communicate with speakers of Japanese or other languages, as well as persons who exhibit different worldviews, value systems and communicative styles. Topics include: culture and basic values, culture shock and factors involved in successful cross-cultural interaction. Each						
授業の進行予定及び進め方	Course Description The issues covered in the course intends to help students identify and appreciate the beliefs, values, and norms of their own culture, and demonstrate increasing ability to communicate with speakers of Japanese or other languages, as well as persons who exhibit different worldviews, value systems and communicative styles. Topics include: culture and basic values, culture shock and factors involved in successful cross-cultural interaction. Each student will write case studies based on their personal experiences in Akita/Japan/abroad. The course consists of two parts: course work on campus and a camp. Camp/gasshuku合宿: We are going out of campus in November but the details are yet to be decided. The participants of the course will make a detailed plan later. *YOU MUST ATTEND BOTH CLASSES ON CAMPUS AND THE CAMP						
授業に関連するキーワード	多文化交流 Cross-cultural Communication	Peer study	Self disclosure				
	Active listening						
成績評価の方法	Percentages of course components that comprise your grade: (1) Class Participation 30% (not just attendance, but contribution to class) (2) Mid-term Reports (2 Case studies and 1 presentation) 30% (3) Final Paper 40%						
教科書・参考書等	【教/参の別】	【書籍名】	【著者】	【出版社】	【出版年】		
教科書・参考書等に関する記述欄	There is no need to buy any textbooks. Necessary materials will be given in class. Reference books will be introduced in class for your further studies. If you wish to read a good book on intercultural communication, the following book is recommended:						
自由記述欄	この授業はすべて英語でおこないます。 This course has a lot of discussions in English. Assignments and reading materials are all written in English.						

科目コード	51342007		単位	2	時間数	30	
授業科目名	自然環境と資源 B - 地球環境と化学元素 -		開講学期等	後期	時間割	月1・2	
授業科目名英字	Natural Environment and Resources : Global Environment and Chemical Elements						
備考	授業の形式		講義	必修・選択	選択		
	受講対象学生		全学部 1年				
内容的に密接に関係する授業科目	履修する際に前提とする授業科目		特にありません。				
【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】
岩田吉弘	教育文化学部英語・理数	教文3-218	2622				
オフィスアワー	【曜日及び時間】	木曜日、13時から14時30分まで		【場所】	教文3-218		
授業の目的				授業の到達目標			
地球環境における化学物質の分布と生体内での機能、環境影響についての理解				1, 元素の生成と地球環境での分布について理解し説明できる。 2, 生体内での化学元素の存在量と機能について理解し説明できる。 3, 人間活動により生成した化学物質の環境への影響について理解し説明できる。			
カリキュラム上の位置付け	環境、化学、生命科学を専門とする学生には、地球化学、無機化学、生物無機化学の入門的な内容。それらを専門としない学生には、地球環境と化学の関わりについて教養を高める内容。						
授業の概要	地球環境における化学物質の分布と生体内での機能、環境影響について、具体例をしめしながら講義します。						
授業の進行予定及び進め方	1, 化学元素の定義と単位、記号 2, 地球の構造 3, 宇宙における元素の生成と存在量 4, 地圏での元素の存在量 5, 大気圏での元素の存在量 6, 水圏、特に海洋における元素の存在量と移動 7, 化学物質の毒性と必須性 8, 生体における元素存在量と機能 9, 微量化学成分の化学分析 10, 水質および大気のモニタリング 11, 光と物質の相互作用 12, 大気の化学組成とその変遷 13, 地球環境での炭素の存在量とその循環 14, 地球規模での大気環境問題、(1)地球温暖化と二酸化炭素 15, 同、(2)酸性雨と硫黄化合物						
授業に関連するキーワード	地球環境	大気圏		海洋			
	生体	化学元素		必須元素			
	有毒元素						
成績評価の方法	授業3回目以降、毎回10分程度のマークシート形式の小試験を10回(90%)、レポート課題1回(10%)。 合否：小試験の成績が60%以上を合格とします。 履修放棄：出席日数が2/3に満たない者 成績不振者、無断欠席者に対するレポート提出や再試験等による救済措置は一切行いません。						
教科書・参考書等	【教/参の別】	【書籍名】		【著者】	【出版社】	【出版年】	
教科書・参考書等に関する記述欄	参考書・教科書は用いません。プリント、OHP、プロジェクターを利用します。						
自由記述欄							

科目コード	51342006			単位	1	時間数	15
授業科目名	環境と社会 B - 地域環境とインフラストラクチャー -			開講学期等	後期前半	時間割	木7・8
授業科目名英字	Environment and Society B:Regional Environment and Infrastructure						
備考				授業の形式	講義	必修・選択	選択
				受講対象学生	全学部 1～4年		
内容的に密接に関係する授業科目				履修する際に前提とする授業科目			
【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】
日野 智	工学資源学部	総合研究棟7F教員	018-889-2359	浜岡 秀勝	工学資源学部	総合研究棟7F教員	018-889-2974
徳重 英信	工学資源学部	工資1-412	018-889-2367	(責)松富 英夫	工学資源学部	工資1-416	018-889-2363
荻野 俊寛	工学資源学部	工資1-419	018-889-2364	渡邊一也	工学資源学部	工資1-420	018-889-2884
後藤文彦	工学資源学部	工資1-418	018-889-2369				
オフィスアワー	【曜日及び時間】	講義終了時にアポイントを取って下		【場所】	各教員室		
授業の目的				授業の到達目標			
われわれが日常生活を営んでいる都市や地域社会では、誰もが安全、安心、快適に生活でき、そして美しい空間の創出が望まれる。そのために必要な諸施設を社会資本という。まず、はじめに社会資本について学び、ついでその整備理念と手法について学ぶ。その後具体的に整備例や自然災害事例について履修する。				1.社会資本（インフラストラクチャー）とはどのように分類されるのか理解し、他に説明できるようにする。 2.地域環境に及ぼす社会資本整備について理解し、他に説明できるようにする。 4.社会資本整備理念を学び、ついで具体例として、鋼、コンクリート、木材による橋梁、地盤災害、水環境・災害を取り上げ、理解できるようにし、他に説明できるようにする。			
カリキュラム上の位置付け	日常生活に不可欠な社会資本整備について履修し、その整備手法について習得することを目的とする講義である。						
授業の概要	社会資本の整備理念と手法について学び、具体的な整備例を履修する。また、安全・安心な社会環境とするため、諸種の自然災害の基本についても学ぶ。						
授業の進行予定及び進め方	第1回：社会基盤施設とは何か、その分類と整備理念について 第2回：持続可能な都市・地域について 第3回：環境に配慮した交通について 第4～6回：社会基盤整備の中での鋼・木・コンクリート材料について 第7～8回：地盤災害と水環境						
授業に関連するキーワード	社会基盤		社会資本整備の理念		都市と交通		
	建設構造物		建設材料		地盤災害		
	水環境・災害						
成績評価の方法	レポート（80％）、出席状況等（20％）を考慮して総合的に評価する。						
教科書・参考書等	【教/参の別】	【書籍名】		【著者】	【出版社】	【出版年】	
教科書・参考書等に関する記述欄							
自由記述欄							

科目コード	51512004			単位	1	時間数	15
授業科目名	ライフサイエンス B			開講学期等	後期前半	時間割	火7・8
授業科目名英字	Life Science IIB						
備考				授業の形式	講義および演習	必修・選択	選択
				受講対象学生	全学部 1～4年		
内容的に密接に関係する授業科目				履修する際に前提とする授業科目			
【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】
河又邦彦	教育文化学部	教育文化4号館	018-889-2590				
オフィスアワー	【曜日及び時間】	随時		【場所】	教育文化4号館312号室		
授業の目的				授業の到達目標			
<p>遺伝学の知識が必要な事象が増えてきています。食品には遺伝子組換え作物があふれ、犯罪捜査にはDNAが欠かせません。最近では、遺伝子検査が流行し、病気の可能性から才能まで検査できるようになりました。遺伝は理解できれば大変面白い問題ですが、知らないとすべてがブラックボックスのように感じてしまいます。この講義では、このような遺伝現象を理解するための基礎として、中学・高校で習うメンデル遺伝を理解することを目的にします。</p>				<p>1) 遺伝子および形質とタンパク質の関係を理解する。 2) 染色体の挙動を理解する。 3) メンデル遺伝についての簡単な入試問題を解くことができる。</p>			
カリキュラム上の位置付け	教養教育						
授業の概要	メンデル遺伝の問題を解くことで、遺伝学の初歩を理解していきます。学生の理解度を把握するため、すべての人の顔と名前を覚えて授業を行いますので、1回目の授業で顔写真の撮影を行います。必ず出席してください。						
授業の進行予定及び進め方	<p>講義は以下の6項目にそって進めます。 この理解を深めるため、 - の演習問題を用意しています。</p> <p>1) 身の回りの遺伝現象 2) 形質とは 3) 遺伝子とタンパク質 4) メンデル遺伝の法則 5) 染色体の挙動 6) 性染色体と遺伝子</p> <p>演習： 一遺伝子雑種を理解するいろいろな問題 二遺伝子雑種を理解するいろいろな問題 伴性遺伝を理解するいろいろな問題</p>						
授業に関連するキーワード	メンデル遺伝		染色体		タンパク質		
	減数分裂		伴性遺伝		DNA		
	形質						
成績評価の方法	課題、試験により判定する。3回以上休んだ場合は再履修となる。						
教科書・参考書等	【教/参の別】	【書籍名】		【著者】	【出版社】	【出版年】	
教科書・参考書等に関する記述欄							
自由記述欄	高校生物のメンデル遺伝を習っていない人、習ったけれどほとんど理解できなかった人を対象にしています。						

科目コード	51712003		単位	2	時間数	30	
授業科目名	コンピュータの科学B - コンピュータ科学の基礎 -		開講学期等	後期	時間割	火3・4	
授業科目名英字	Computer Science B: Fundamentals on Computer Science						
備考	授業の形式		講義	必修・選択	選択		
	受講対象学生		全学部 1～4年				
内容的に密接に関係する授業科目	履修する際に前提とする授業科目		コンピュータリテラシーにかかわる基礎科目（情報処理の技法，情報処理入門，情報処理）を履修している				
【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】
佐々木重雄	教育文化学部	教文4 - 4 1 3	018-889-2763				
オフィスアワー	【曜日及び時間】	水 15:00～17:00		【場所】	教文4 - 4 1 3		
授業の目的				授業の到達目標			
コンピュータ内部におけるデータ表現である二進数、および、その処理の仕組みを学ぶ。特にデジタル処理の基礎としてブール代数および論理回路を学ぶ。				<ul style="list-style-type: none"> 情報のデジタル化について説明できる。 データ表現とその処理について説明できる。 論理演算（ブール代数の演算）ができる。 デジタル回路（組合せ回路および順序回路）の記号を理解し、簡単な回路設計ができる。 			
カリキュラム上の位置付け	コンピュータの利用に関する授業（情報処理の技法，情報処理入門，情報処理）と対になる形で、情報の表現およびコンピュータの動作原理を学習する						
授業の概要	コンピュータが扱うデータであるデジタル情報について、その性質、および、その処理方法の原理を学習する。最終的に、デジタル情報を扱うハードウェアとしての論理回路の設計方法までを学習する。主に取り上げる内容は、(1)アナログ情報とデジタル情報の違い、(2)2進数の計算、(3)数値以外のデジタル情報、(4)ブール代数、(5)論理回路である。						
授業の進行予定及び進め方	<p>授業進行は以下のとおり</p> <ol style="list-style-type: none"> ガイダンスと基礎知識 2進数とその他の基数表現（2進数，8進数，10進数，16進数） テキスト・データと文字コード 画像，音声のデジタル表現 補数（コンピュータ内部の減算） 負の数の表現 ブール代数（AND，OR，NOT およびその演算規則） ブール代数（NAND，NOR，XOR およびド・モルガン律） 半加算回路 全加算回路 順序回路 1 順序回路 2 ブール代数（ハミング距離とグレイコード） 						
授業に関連するキーワード	デジタル	ブール代数		デジタル回路			
	データ表現	2の補数表現		カルノー図			
	組合せ回路	順序回路		フリップフロップ			
成績評価の方法	成績評価は3回の試験（所要時間は、各々およそ30分）を合計した点数で行う。						
教科書・参考書等	【教/参の別】	【書籍名】		【著者】	【出版社】	【出版年】	
	教科書	『情報の表現とコンピュータの仕組み』		青木征男	ムイスリ出版	2009	
	参考書	『コンピュータシステム入門』		都倉信樹	岩波書店	2002	
	参考書	『コンピュータの構成と設計・上』		バターソン，ヘネシー	日経BP	2011	
	参考書	『コンピュータの構成と設計・下』		バターソン，ヘネシー	日経BP	2011	
参考書	『デジタル回路のシステム設計』		磯田修一	CQ出版	1984		
教科書・参考書等に関する記述欄	参考書は、図書館にもあります。						
自由記述欄							

科目コード	51562002			単位	1	時間数	15
授業科目名	医学と健康 B - 21世紀の生活習慣と健康最新情報 -			開講学期等	後期前半	時間割	水1・2
授業科目名英字	Medical Science and Health IB						
備考				授業の形式	講義	必修・選択	選択
				受講対象学生	全学部 1～4年		
内容的に密接に関係する授業科目	なし			履修する際に前提とする授業科目	なし		
【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】
長谷川 仁志	医学部医学教育学講座	116	018-884-6097				
オフィスアワー	【曜日及び時間】			【場所】			
授業の目的				授業の到達目標			
21世紀の社会を支える大学生のための生活習慣と健康についての最新知識を修得する。				主要な生活習慣病中心にそのメカニズムと予防の重要ポイントについて理解する。			
カリキュラム上の位置付け	教養基礎教育の目標「(6)本学に所属する教官の固有の専門的力量を、教養教育にも十分に発揮できるカリキュラム体制を目指し、それによる特色と効果を創出する」と深くかかわる科目。						
授業の概要	大学時代および卒業後、社会人としての健康に関する重要知識を修得するために疾患のメカニズムとその予防についての理論を学びます。						
授業の進行予定及び進め方	1回目：10月 7日 世界最高齢社会日本における疾患構成の推移 2回目：10月 14日 高血圧治療の最新ガイドライン基本知識 3回目：10月 21日 コレステロール異常、糖尿病と動脈硬化性疾患 4回目：10月 28日 脳梗塞の原因の3割以上を占める不整脈についてのエッセンス 5回目：11月 4日 健康に関するエビデンスとその解釈ポイント 6回目：11月 11日 家庭における胸痛の自己診断ポイント 7回目：11月 18日 家庭における腹痛の自己診断ポイント 8回目：11月 25日 社会人として知っておくべき健康管理						
授業に関連するキーワード	世界最高齢社会		生活習慣		高血圧		
	コレステロール		脳梗塞		不整脈		
成績評価の方法	出席とレポートによる評価。						
教科書・参考書等	【教/参の別】	【書籍名】		【著者】	【出版社】	【出版年】	
	参考書	『疾病論第2版』		井上泰	医学書院	2011	
教科書・参考書等に関する記述欄	講義内容付近をさらに深く理解するために有用。						
自由記述欄							

科目コード	51562004		単位	1	時間数	8	
授業科目名	医学と健康 B - 新しい医療機器を生み出す医工連携		開講学期等	後期前半	時間割	水5・6	
授業科目名英字	Medicine-engineering collaboration						
備考			授業の形式	講義	必修・選択	選択	
			受講対象学生	全学部 1～4年			
内容的に密接に関係する授業科目			履修する際に前提とする授業科目				
【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】
南谷佳弘	医学部・胸部外科		018-884-6132	齋藤 元	医学部・胸部外科		018-884-6132
赤上陽一	秋田県庁		018-884-6132	菅原 卓	秋田県立脳血管研究セン		018-884-6132
小山 崇	医学部・循環器内科		018-884-6132	三浦清美	産学連携推進機構		018-884-6132
近藤克幸	医学部・医療情報学		018-884-6132				
オフィスアワー	【曜日及び時間】	月曜～金曜 13:00～17:00		【場所】	医学部胸部外科医局		
授業の目的				授業の到達目標			
医療機器がどのように開発されているかを、実例を中心に実践的に学ぶ。				医療機器開発における医療従事者の役割を説明できる。 医療機器開発における技術者の役割を説明できる。			
カリキュラム上の位置付け	医療機器開発に関して、医療従事者や技術者のを理解し「次世代医療機器開発の重要性」について考察する。						
授業の概要	以下の講義を通して医療機器開発の実際を学び、「次世代医療機器開発の重要性」を再認識していただきます。						
授業の進行予定及び進め方	第1回 如何にして医療機器が開発されたか 南谷佳弘 第2回 医学部と理工学部が連携して新しい医療を生み出した実例 齋藤元 第3回 医療機器開発における技術者と行政の役割 赤上陽一 第4回 新しい医療を如何にして生み出したか 菅原卓 第5回 医療機器開発における医療従事者の役割 小山崇 第6回 医療機器開発における国の役割 三浦清美 第7回 新しい医療開発の実例 -電子タグを用いた管理患者- 近藤克幸 第8回 今までのまとめ、みんなで考えよう 南谷佳弘						
授業に関連するキーワード	医療機器	医工連携		新しい医療			
	がん医療	技術者		理工学部			
成績評価の方法	・欠席3回の時点で評価はDとする。 ・第8回の講義で短いフリーディスカッションの後に、講義中にも800程度の小論文を提出 ・学籍番号、氏名を書いた上で、講義全般を聞いて感じたことを記載してください。						
教科書・参考書等	【教/参の別】	【書籍名】		【著者】	【出版社】	【出版年】	
教科書・参考書等に関する記述欄							
自由記述欄	・第1回の講義時に、この講義のシラバスを配布予定						

科目コード	51812002			単位	2	時間数	30
授業科目名	医学と健康 B - 加齢と保健医療 -			開講学期等	後期	時間割	木3・4
授業科目名英字	Medical Science and Health IIB:aging and health care						
備考				授業の形式	講義	必修・選択	選択
				受講対象学生	全学部 1～4年		
内容的に密接に関係する授業科目				履修する際に前提とする授業科目			
【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】
鈴木 圭子	医学系研究科保健学専攻	B303	018-884-6511	中村 順子	医学系研究科保健学専攻	B209	018-884-6516
百田 芳春	医学系研究科保健学専攻	C104	018-884-6509	山口 典子	医学系研究科保健学専攻	C113	018-884-6522
安藤 秀明	医学系研究科保健学専攻	C112	018-884-6471	永田 美奈加	医学系研究科保健学専攻	B204	018-884-6546
長岡 真希子	医学系研究科保健学専攻	C210	018-884-6523	藤田 智恵	医学系研究科保健学専攻	B102-1	018-884-6544
オフィスアワー	【曜日及び時間】	適宜担当教官と連絡		【場所】	適宜担当教官と連絡		
授業の目的				授業の到達目標			
1) 加齢に伴う身体・精神的变化を理解し、高齢社会で暮らす地域住民としての基礎的知識・態度を習得する。 2) 高齢期における個人の生活の質的向上と保健医療との関わりを、多様な観点から学ぶ。				1) 加齢に応じた健康保持、保健医療への関わり、医療側の対応が理解できる。 2) 加齢と保健医療の現状を理解し、高齢者へのいたわりの心をもてる。 3) 加齢と保健医療について、具体的に問題提起し考察することができる。			
カリキュラム上の位置付け	加齢と保健医療を理解するための基礎科目である。						
授業の概要	加齢に伴う身体的精神的变化を理解し、高齢者の生活の質的向上と保健医療との関わりを探求する。						
授業の進行予定及び進め方	担当			講義の内容			
	1. 永田美奈加 : 地域・老年看護学講座			10/1 高齢者のケア(1)			
	2. 永田美奈加 : 地域・老年看護学講座			10/8 高齢者のケア(2)			
	3. 安藤 秀明 : 臨床看護学講座			10/15 加齢と疾病、治療(1)			
	4. 安藤 秀明 : 臨床看護学講座			10/22 加齢と疾病、治療(2)			
	5. 長岡真希子 : 地域・老年看護学講座			10/29 高齢者と家族			
	6. 藤田 智恵 : 地域・老年看護学講座			11/5 高齢者と地域でのケア			
	7. 中村 順子 : 地域・老年看護学講座			11/12 高齢者の在宅ケア(1)			
	8. 中村 順子 : 臨床看護学講座			11/19 高齢者の在宅ケア(2)			
	9. 百田 芳春 : 基礎看護学講座			11/26 加齢と身体機能変化(1)			
	10. 百田 芳春 : 基礎看護学講座			12/3 加齢と身体機能変化(2)			
	11. 百田 芳春 : 基礎看護学講座			12/10 加齢と身体機能変化(3)			
	12. 山口 典子 : 基礎看護学講座			12/17 加齢と栄養(1)			
	13. 山口 典子 : 基礎看護学講座			12/24 加齢と栄養(2)			
	14. 山口 典子 : 基礎看護学講座			1/21 加齢と栄養(3)			
授業に関連するキーワード	加齢		保健医療		健康		
	ケア		栄養		家族		
	身体機能変化		地域		在宅		
成績評価の方法	講義出席状況(2/3以上)を満たした上で、参加態度(10%)、テスト(90%)						
教科書・参考書等	【教/参の別】	【書籍名】		【著者】	【出版社】	【出版年】	
教科書・参考書等に関する記述欄	特に指定しない。						
自由記述欄							

科目コード	51812003			単位	2	時間数	30
授業科目名	がん医療と緩和ケア			開講学期等	後期	時間割	木7・8
授業科目名英字	cure for cancer and palliative care						
備考				授業の形式	講義	必修・選択	選択
				受講対象学生	全学 1・2年		
内容的に密接に関係する授業科目				履修する際に前提とする授業科目			
【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】
伊藤 登茂子	保健学専攻	C-209	018-884-6519	安藤 秀明	保健学専攻	C-112	018-884-6471
兒玉 英也	保健学専攻	C-114	018-884-6513	山口 典子	保健学専攻	C-113	018-884-6522
煙山 晶子	保健学専攻	D-305	018-884-6548	高階 淳子	保健学専攻	B-103	018-884-6551
オフィスアワー	【曜日及び時間】	木曜 16:00 - 16:15		【場所】	講義室または各教員研究室		
授業の目的				授業の到達目標			
「がん」という病い、そして生活者たる人々にある「がん」、および治療的行為（cure）と援助的行為（care）の理解を通して「がん」との向き合い方を学ぶ。				1) 日本における「がん」の実態と課題について理解できる。 2) 「がん」とともに生きる人々の全人的理解について述べるができる。 3) 「がん」の予防と療養における栄養について述べるができる。 4) 「がん」と遺伝子とのかわりについて理解できる。 5) 発生頻度の高い「がん」の特徴と治療、およびがん医療の未来について理解を深めることができる。 6) 「がん」とともにより良く生活するための症状マネジメントについて、理解することができる。 7) 身体的・心理的・社会的苦痛とスピリチュアルペインについて述べるができる			
カリキュラム上の位置付け	大学生として社会の期待に応えられる資質の涵養を目指し、教養基礎教育科目として位置づける。						
授業の概要	講義を主としながら、がんの成り立ち、治療、ケアについて現状の理解を深め、がんとともにいかにより良く生きるか、どのように向き合うかを共に考える。						
授業の進行予定及び進め方	1回 (10/ 1) 「がん」という病いの動向 2回 (10/ 8) がん患者・家族の体験とケア (伊藤) 3回 (10/15) 同上 (伊藤) 4回 (10/22) がんの予防と療養における栄養 (伊藤) 5回 (10/29) がん病態総論 (安藤) 6回 (11/ 5) 5大がん各論 (安藤) 7回 (11/12) がん対策 (安藤) 8回 (11/19) がん遺伝子 (山口) 9回 (11/26) がん概日リズム (兒玉) 10回 (12/ 3) がん患者の放射線治療に伴う症状マネジメント (高階) 11回 (12/10) 患者の化学療法に伴う症状マネジメント (全身倦怠感、脱毛、嘔気、味覚障害など) (高階) 12回 (12/17) がんそのものおよび手術療法に伴う症状マネジメント (悪液質、疼痛、リンパ浮腫) (高階) 13回 (12/24) がん患者・家族の苦痛や苦悩と緩和ケア (煙山)						
授業に関連するキーワード	がんの動向		がん看護		生活習慣		
	がん医療		全人的理解		緩和ケア		
	症状マネジメント		がんサバイバー				
成績評価の方法	筆記試験 (80%)、学習態度 (20%) とし、総合60%以上を合格とする。 欠席6回の時点で評価は「D」とする。						
教科書・参考書等	【教/参の別】	【書籍名】		【著者】	【出版社】	【出版年】	
	参考書	『19歳の君へ - 人が生き、死ぬということ』		日野原重明編著	春秋社	2009	
	参考書	『詩集 病者・花』		小川鼎三, 中井準之助	現代社	1990	
	参考書	『トワイクロス先生のがん患者の症状マネジメント』		Twycross, R. 武田文和	医学書院	2003	
	参考書	『ケアの思想と対人援助』		村田久行	川島書店	2010	
	参考書	『がんサバイバー』		Miller, K.D., 勝俣範之	医学書院	2012	
教科書・参考書等に関する記述欄							
自由記述欄							

科目コード	51812005			単位	2	時間数	30
授業科目名	大学生と健康 B - 上手に生きる為の基礎知識 -			開講学期等	後期	時間割	木7・8
授業科目名英字	Students and Health A:A primer of mental and physical health for college students						
備考				授業の形式	講義	必修・選択	選択
				受講対象学生	全学部 1～4年		
内容的に密接に関係する授業科目				履修する際に前提とする授業科目			
【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】
苗村育郎	保健管理センター	2287		小林政雄	保健管理センター	2285	
円山啓司	非常勤講師	2286		後藤優子	非常勤講師	2286	
筒井 幸	非常勤講師	2286		草薙宏明	非常勤講師	2286	
オフィスアワー	【曜日及び時間】	毎日 9:00 - 17:00		【場所】	保健管理センター		
授業の目的				授業の到達目標			
複雑な現代社会の生活では心身共に成長期である青年にとっては、社会環境から多くのストレスに晒され日常生活で健康に生き抜く知恵が必要である。増加している成人病（癌、心臓病、脳卒中）の予防は青年期から徹底化する必要がある。この科目は青年が直面している心とからだの健康状況を認識し、将来の生活の支えとなることを目的として行う。				健康で創造的な生活を送るためのもっとも基本的な知識を心と体の両面において身につけることを目指す。身体面では各種の生活習慣病や、感染症、不眠症などの予防法を学び、心理面では性格、人間関係、神経症や鬱病から信仰の問題に至るまで幅広く取り上げる。			
カリキュラム上の位置付け	心身の健康と社会生活のもっとも基礎的な部分を学ぶ。						
授業の概要	1)人類はこれまでに経験したことのない未曾有の高齢化社会を経験している。これはたんに成人病の増加ということに留まらず、社会の各部署で個人がどう対処していくかという視点を明確にしておかないと、将来の人類の生存をも脅かしかねない。成人病や癌や痴呆の予防方法、エイズをはじめとする感染症などの基礎知識などについては青年期までに十分な理解を持っておくことが重要であり、日常生活の中での対処の仕方を学んでおくことが必要である。 2)また、高度情報化社会への移行に伴い、経済・社会情勢が急速に変貌している。このストレスにたえて、人生を健康に生き抜くためには、まず						
授業の進行予定及び進め方	スライドとレジメのプリントはほぼ毎回使用する。授業に入りきらない課題も多いため、ほぼ1ヵ月に1本の割合でレポート提出を課する。（興味を持って調べて勉強することの楽しさを感じる学生は多い。）レポートは1本ずつ評価して、テスト成績に加点する。						
授業に関連するキーワード	心と体の健康保健		神経症・うつ病・認知症			睡眠障害と心身の調子	
	生活構造と人生・宗教		飲酒・喫煙の害と発癌			エイズ・性感染症	
	救急措置・海外渡航		生活習慣病・高血圧				
成績評価の方法	期末試験の結果と出席状況、及びレポートを統合して行う。						
教科書・参考書等	【教/参の別】	【書籍名】			【著者】	【出版社】	【出版年】
	参	『新版 学生と健康』				南江堂	2011
教科書・参考書等に関する記述欄							
自由記述欄							

科目コード	51602001		単位	2	時間数	30時間	
授業科目名	外科手術と手術機器の進化		開講学期等	後期	時間割	水9・10	
授業科目名英字	Evolution of the surgical devices and its procedure						
備考	受講人数多数の場合は、制限する可能性があります。			授業の形式	講義・学生参加型	必修・選択	選択
				受講対象学生	全学部 1, 2, 3, 4年生		
内容的に密接に関係する授業科目	なし			履修する際に前提とする授業科目	特になし		
【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】
安藤秀明	戦略的外科系医師養成ブ	6471	884-6471	飯田正毅	消化器外科		
齊藤 元	呼吸器外科			伊藤亜樹	乳腺外科		
他 非常勤講師							
オフィスアワー	【曜日及び時間】	11期 水曜日 9・10時限		【場所】	医学部 基礎講義棟第一講義室		
授業の目的				授業の到達目標			
<p>外科手術の進歩が、麻酔・消毒法・手術機器の開発によって飛躍的に進化し、変貌していることを理解する。 外科サブスペシャリティの特徴を理解する。 手術機器の構造を理解し、操作を体験する。</p>				<p>1. 外科治療の歴史を理解し、進歩の要因を説明することができる。 2. 安全な手術のために必要な麻酔の重要性を説明できる。 3. 手術の安全性・確実性・低侵襲性を実現するために、手術機器が開発されてきた経緯を説明することができる。 4. 外科サブスペシャリティの特徴を説明できる。</p>			
カリキュラム上の位置付け	外科系手術手技、その開発に関わる機器の進歩に関心を持つ学生・一般に向けた基礎科目である。医学部以外の受講も歓迎する。						
授業の概要	手術機器はその原理を講義で理解し、実際に操作体験を行う。						
授業の進行予定及び進め方	<p>1. 外科の歴史 2. 創傷治癒 3. 手術機器の進化 1) 縫合糸 2) エネルギーデバイス（電気メス、超音波凝固切開装置、熱凝固装置、超音波破砕器など） 3) 鉗子 4) ディスポーザブル物品 5) 光学機器 4. 内視鏡手術 5. 鏡視下手術（腹腔鏡下手術、胸腔鏡下手術） 6. ロボット支援手術 7. 医療機器管理 8. 外科サブスペシャリティ：消化器外科、呼吸器外科、心臓血管外科、小児外科</p>						
授業に関連するキーワード	外科医学史		光学機器		手術機器		
	消毒		縫合・吻合機器		鏡視下手術		
	エネルギーデバイス						
成績評価の方法	出席・講義毎に提出されたレポート内容を評価して決定。						
教科書・参考書等	【教/参の別】	【書籍名】		【著者】	【出版社】	【出版年】	
教科書・参考書等に関する記述欄	資料を随時配布する。						
自由記述欄	毎回講義に関するレポート提出を行ってまいります。レポートは講義終了後1週間以内に提出してもらい、それ以降は受け付けません。毎回のレポート評価点数と提出数で成績評価します。						

科目コード	51222009			単位	2	時間数	30
授業科目名	社会と地域B - 都市社会学の基礎 -			開講学期等	後期	時間割	火3・4
授業科目名英字	Society and CommunityB: Introduction to the Urban Sociology						
備考				授業の形式	講義	必修・選択	選択
				受講対象学生	全学部 1～4年		
内容的に密接に関係する授業科目	（「教養基礎教育」では特になし）			履修する際に前提とする授業科目	なし		
【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】
和泉 浩	教育文化学部地域文化学	教育文化学部3号	018-889-2649			izumi@ed.aki ta-	
オフィスアワー	【曜日及び時間】	火曜昼休みおよび研究室在室時		【場所】	教育文化学部3号館322		
授業の目的				授業の到達目標			
現代における地域と社会の諸問題・諸現象を社会的視点からとらえるために、社会学の考え方、特に都市社会学の基本的な理論と今日の理論展開について学ぶ。				1.社会学とは、どのような学問なのか理解する。 2.社会学の基本的な考え方を理解する。 3.都市社会学のこれまでの基礎的な理論と理論潮流および「空間論的転回」以降の社会学と地理学の理論状況を理解する。			
カリキュラム上の位置付け	都市社会学、社会学一般の基礎となる授業で、特に他の授業の履修を前提にするものではありません。ただし、さまざまな理論を取りあげるので、抽象的で難しい内容も含まれます。						
授業の概要	授業の前半では社会学の基本的な考え方、社会学が誕生した社会的背景について説明し、後半に都市社会学の基本的な考え方、こんにちの都市研究について説明していきます。						
授業の進行予定及び進め方	授業予定（以下の各講での内容は、授業の進み具合などにより変更します）。 第1講 授業についての説明 第2講 現代社会と社会学 第3講 啓蒙主義、近代科学と社会学 第4講 国民国家の形成と社会科学 第5講 産業革命と都市化 第6講 消費社会と都市 第7講 都市衛生と近代都市、都市と交通 第8講 国際化、グローバル化と都市 第9講 都市とモダニズムとポストモダニズム 第10講 都市とユニバーサルデザイン 第11講 都市社会学の主要な理論の潮流 第12講 ジンメル都市論 第13講 シカゴ学派の都市社会学 第14講 「空間論的転回」以降の社会学と地理学1						
授業に関連するキーワード	社会学	都市		社会理論			
	空間論的転回	国家		グローバル化			
	地域	消費社会					
成績評価の方法	授業に関連する内容について的小テストとレポートで成績を評価します。小テスト（2回、各25点）：授業内容について理解しているかの確認。レポート（50点）：小テストおよびレポートの課題は授業内でのみ説明を行い、揭示や、欠席した場合の個人的な問い合わせに対する説明などを行いません。授業を欠席する場合は、欠席届けを提出してください。レポートは締め切り厳守で、締め切り日「時」をすぎたレポートは評価の対象外にします。またほぼ同一内容のレポートがあった場合、ネットや本の内容をそのまま写したと判明したレポートはDにします。レポートは英語でも可です。追試験・再試験は行いません。						
教科書・参考書等	【教/参の別】	【書籍名】		【著者】	【出版社】	【出版年】	
	参	『都市空間の地理学』		加藤政洋ほか	ミネルヴァ書房	2006	
	参	『鉄道旅行の歴史』		シヴェルブシュ	法政大学出版局	2011新装版	
	参	『想像の共同体』		アンダーソン	書房工房早山	2007	
	参	『監獄の誕生』		フーコー	新潮社	1977	
参	『地図の想像力』		若林幹夫	河出書房新社	2009		
教科書・参考書等に関する記述欄	教科書は使用しません。参考文献（和書および英語の文献）は、授業の内容に関連するものを、そのつど各回の授業のなかで指示します。参考書をあらかじめ購入する必要はありません。						
自由記述欄	講義形式の授業ですが、教科書を使用せず、また資料も配布せず、基本的に黒板に書きながら説明していくため、板書の量はかなり多いです。レポートは論文形式で、長めのものを書いてもらいます。						

科目コード	51252008			単位	1	時間数	15
授業科目名	秋田の自然と文化 B - 秋田の自然・資源・社会・文			開講学期等	後期後半	時間割	木7・8
授業科目名英字	Nature and Culture in Akita B						
備考				授業の形式	講義	必修・選択	選択
				受講対象学生	全学部 1～4年		
内容的に密接に 関係する授業科目				履修する際に前提 とする授業科目			
【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】
今井 亮	国際資源学部	国際資源学部	889-2371	内田 隆	国際資源学部	国際資源学部B304	889-2652
高橋 亮平	国際資源学部	国際資源学部	889-2379	大場 司	国際資源学部	国際資源学部	889-2374
林 武司	地域社会講座	教文3-333	889-2664	石沢 真貴	政策科学	教文3-331	889-2616
小泉 幸央	医学部分子機能学・代謝	医	884-6075	小泉 重仁	医学部内科学第1講座	医	884-6104
オフィスアワー	【曜日及び時間】	木曜, 16:00-17:00		【場所】	工3G309・889-2370		
授業の目的				授業の到達目標			
秋田大学で学ぶ大学生として、秋田の自然社会、文化等の背景と環境を知り、秋田の特色を学び、専門教育との位置づけと係わり、地域と連携について考えることを目的とする。				1) 限りある地下資源の基礎的知識を学び、秋田県の黒鉱鉱床資源および石油資源を認識し、資源の生成機構を理解できる。 2) 秋田県内の火山および火山にまつわる生態や伝承など、火山に関わる自然と文化を理解できる。 3) 秋田の多様な水環境の特徴や文化との関わりを理解し、環境の保全における課題を考えることができる。 4) 秋田の地域社会の特徴を種々の統計資料から読み取ることができる。 5) 遺伝子資源としての微生物の重要性とその創薬への応用を理解することができる。			
カリキュラム上の 位置付け	人間生活に深く関連する事柄の中で、秋田の資源や文化に密接に係わる問題を取り上げ、3学部の教員がそれぞれの専門分野を生かした講義を行う（本年度の担当責任者は今井亮）。						
授業の概要	1) 世界有数の秋田県の黒鉱鉱床資源、資源の生成機構についての講義と鉱業博物館の展示物（鉱物、鉱石等）を見学。 2) エネルギー資源の賦存状況、秋田県に分布する石油・天然ガス資源について紹介し、資源問題を考える。 3) 秋田県内の火山および火山にまつわる生態や伝承など、火山に関わる自然と文化についての講義。 4) 秋田の水環境の特徴や文化との関わり、環境問題についての講義 5) 秋田の地域社会の特徴を種々の統計資料から明らかにする。						
授業の進行予定 及び進め方	第1回(今井亮)：秋田県は日本有数の地下資源の宝庫として知られている。県周辺の地下資源を概説し、秋田県北東部の北鹿地域に分布する世界有数の黒鉱鉱床の地質と火山活動、鉱床探査技術について紹介し、資源問題を考える。 第2回(内田)：限りある地下資源としてのエネルギー資源の賦存状況を概説し、その基礎的知識を学習する。秋田県に分布する石油・天然ガス資源について紹介し、資源問題を考える。 第3回(高橋・今井)：地学や地質の自然物を対象とする学習は、実際に野外における観察や実物に触れることが大切である。資源に関する講義の理解度をより高めるために、本学が世界に誇る鉱業博物館の展示物（鉱物、鉱石等）を見学・観察する（学生ボランティアも参加）。＜鉱業博物館玄関に集合＞ 第4回(大場)：秋田県内の火山および火山にまつわる生態や伝承など、火山に関わる自然と文化についての講義。 第5回(林)：秋田の多様な水環境の特徴を科学的に理解したうえで、秋田の文化との関わりや、水に関連する環境問題の現状を学習することで、解決策を考える。 第6回(石沢)：秋田の地域社会の特徴を種々の統計資料から明らかにする。 第7回(小泉幸央)：秋田県出身の応用微生物学者「遠藤 章」による高脂血症治療薬「スタチン」の発見を通して、遺伝子資源としての微生物の重要性とその創薬への応用を理解する。 第8回(小泉重仁)：秋田県の胃癌死亡率は、十数年日本ではほぼワーストワンの座に君臨している。講義を通して、一般的な知識を学ぶ他、病気を身近なもの、そして予防の重要性について考える。						
授業に関連する キーワード	秋田の地質とエネルギー資源		黒鉱鉱床		秋田の火山		
	水資源と文化、水と環境問題		秋田の地域社会		微生物と創薬		
	癌		鉱業博物館				
成績評価の方法	授業内容に関するレポート（50%）、簡単な小テスト（50%）で評価する。						
教科書 ・ 参考書等	【教/参の別】	【書籍名】			【著者】	【出版社】	【出版年】
教科書・参考書等 に関する記述欄	特に使用しない						
自由記述欄							

科目コード	51941002			単位	2	時間数	30
授業科目名	日本語リテラシー - 表現力 -			開講学期等	後期	時間割	金3・4
授業科目名英字	Japanese Literacy II						
備考	40名以内			授業の形式	講義・演習	必修・選択	選択
				受講対象学生	全学部1年次以上		
内容的に密接に関係する授業科目				履修する際に前提とする授業科目			
【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】
銭谷 秋生	教育推進総合センター	学生支援棟2階	2252	栗城 宏	非常勤講師		
畠山 民栄	非常勤講師						
オフィスアワー	【曜日及び時間】	銭谷：水曜7・8		【場所】			
授業の目的				授業の到達目標			
1)演劇的手法を使って演習を行い、現代人に必要な会話によるコミュニケーション能力を高める。 2)「相手を認める」ことがコミュニケーションの第一歩ということを受け止める。				1)相手の話を受け止め、自分の考え・意志を相手にしっかりと伝える事ができるようになる。 2)急に人前を出てのスピーチに際して、自分の思いを伝えることができるようになる。			
カリキュラム上の位置付け							
授業の概要	前半は、短い戯曲を用いて演劇の稽古を行う。その際に留意することは、登場人物の心理の変化を台詞から読み取り、自分の心理の変化として相手に投げかけること。また、相手の台詞からもらう言葉によって再び心理の変化が起き、次の言葉を生み出す。この連続する作用によってドラマを浮き立たせていく。 後半は、スピーチの技法を学びながら、「言葉が届く」とはどういうことかを考える。						
授業の進行予定及び進め方	1回 自分の言葉で語る。 演劇の基礎。シアターゲームなどを用いて、自分の思いを自分の言葉で語る。 2回 声の拡大。心理の拡大。 発声の基礎。「走れメロス」を用いて心理的極限状態の声をさぐる。 3～6回 戯曲の台詞を読む。(わらび座の上演作品から抜粋) 読み合わせ。役の台詞を読み、心理の変化を探る。 演劇演習 (わらび座の上演作品から抜粋) 立ち稽古。しっかりと相手役と会話をする。 7回 まとめ 成果発表。 8～14回 実技を交えながら進める。 「話す前に"姿"有り」話すことのトータルな部分を学ぶ 自己紹介「自分を印象づけるには...」 新聞・雑誌の記事の中から...「2分～3分くらいのスピーチを」 その場でのスピーチ 朗読「資料有り」						
授業に関連するキーワード							
成績評価の方法	成果発表時の実技、授業時の発表と期末のレポートにて評価する。 台詞の理解力があるか、多様な心理変化の表現が的確かどうか、会話が成立しているか、などを特に重視する。						
教科書・参考書等	【教/参の別】	【書籍名】		【著者】	【出版社】	【出版年】	
教科書・参考書等に関する記述欄	プリントを配付し演習を行う。参考文献はその都度紹介する。						
自由記述欄	『人は一人にらず』相手を認めることができるかどうか、社会人としての基本を学んでいきたい。						

科目コード	51931002		単位	1	時間数	16	
授業科目名	キャリアデザイン基礎		開講学期等	後期前半	時間割	木7・8	
授業科目名英字	Carrier Design Basic						
備考	「キャリアデザイン」および「キャリアデザイン」を受講するためには、本講義の単位を取得している		授業の形式	講義・学生参加型	必修・選択	選択	
			受講対象学生	1年次			
内容的に密接に関係する授業科目	キャリアデザイン、キャリアデザイン		履修する際に前提とする授業科目				
【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】
渡部昌平	非常勤講師	問い合わせ先：総					
オフィスアワー	【曜日及び時間】			【場所】			
授業の目的				授業の到達目標			
後悔しない進路選択を行うためには、低年次からキャリアデザイン（将来設計）を意識しながら、自らの置かれている立場と将来に目を向け、主体的自律的に考え、行動することが不可欠である。 本講義は、これらの問題意識に立ち、キャリアデザインを行うことの重要性と必要性を考える契機を提供するものである。 そのためには、「自分を理解すること（自己理解）」「仕事を理解すること（仕事理解）」が重要である。				本講義では、それぞれの学生が目標を設定し、それに向かって主体的に考え、行動していくことができる基礎的な能力の習得を目指す。			
カリキュラム上の位置付け	本学の教育目標に、「社会の変化に柔軟に適應できる幅広い教養と深い専門性、豊かな人間性と高度の倫理性を備え、社会の発展に貢献できる人材を養成します」、「地域の文化的・経済的発展に貢献できる人材を養成します」とある。 本講義は、これらの目標の具体化を目指すものである。						
授業の概要	本講義は、キャリアデザインを行うことの重要性と必要性を考える契機を提供するものである。 キャリアデザインを行っていく上では、「自分を理解すること（自己理解）」「仕事を理解すること（仕事理解）」が重要であるが、本講義では、仕事理解の前提となる自己の振り返りをした上で「仕事理解」について学ぶ。						
授業の進行予定及び進め方	第1回 ガイダンス（働くことの意味（世代間の引継ぎ／地域・社会への貢献）、キャリアデザインの重要性等について） 第2回 働くって何？～社会のニーズについて考える 第3回 働くって何？～「やりたいこと」「頑張りたいこと」について考える 第4回 大学生活と社会・未来をつなぐ／やる気・積極性の源を考える 第5回 働くための資源～あなたの資源は何？ 第6回 働くための資源～周囲にはどんな資源がある？ 第7回 ディスカッションとグループワーク：働くことについて 第8回 講演（外部講師による講演）						
授業に関連するキーワード	キャリアデザイン	キャリア教育	仕事理解				
成績評価の方法	・小テスト7回（7×10%）、期末レポート（30%）。 ・総合60%を合格とする（ただし、期末レポート未提出者は不合格とする）。						
教科書・参考書等	【教/参の別】	【書籍名】		【著者】	【出版社】	【出版年】	
	教科書	『日本で一番大切にしたい会社』		坂本光司	あさ出版	2008	
	参考書	『大学生のための「キャリア設計」書き込みノート』		渡部昌平	三文舎	2012	
教科書・参考書等に関する記述欄	レジュメ・資料については必要に応じて配付する						
自由記述欄	「外から与えられた仕事理解」ではなく、自らの体験・これまでの役割等を振り返りながら「仕事をどう理解すればよいか」「仕事をどう選択すればよいか」を自分のこととして考えていきます。						